

# アユ資源回復支援モニタリング調査

(アユ資源回復手法開発事業)

寺戸稔貴・雑賀達生

## 1. 目的

県西部を流れる高津川において、アユ資源の動向を把握し、流域関係機関による資源回復の取組を支援する。

## 2. 方法

### (1) 流下仔魚調査

高津川の河口上流約 3.5 kmの産卵場直下において、2024（令和 6）年 10 月 9 日から 12 月 11 日にかけて流下仔魚調査を計 9 回行った。各調査日の 17～24 時に関し、1 時間毎に原則 5 分間ノルパックネット（GG54）により仔魚を採捕した。得られた仔魚は、直ちに 5%ホルマリン溶液で固定した。実験室に持ち帰った後、仔魚数を計数し、ろ水量ならびに国土交通省提供の河川流量から流下仔魚数を推定した。

### (2) 遡上魚と放流魚の比率調査

2024 年 8 月 18 日にさし網漁業により漁獲されたアユを購入し、外部形態（側線上方横列鱗数、下顎側線孔数、背鰭の形態）から遡上魚と放流魚を判別し、各漁場における割合を比較した。

### (3) 遡上魚の日齢査定

2024 年 4 月 11 日から 2024 年 5 月 22 日にかけて、高津川支流の匹見川および益田川において投網により遡上魚の採捕を行い、遡上魚の耳石日周輪数から孵化時期を推定した。

## 3. 結果

### (1) 流下仔魚調査

総流下仔魚尾数は約 27.6 億尾（暫定値）と推定され、前年の 21.7 億尾（確定値）を上回った。また、流下仔魚数のピークは 11 月中旬の 10.5 億尾と推定された（図 1）。

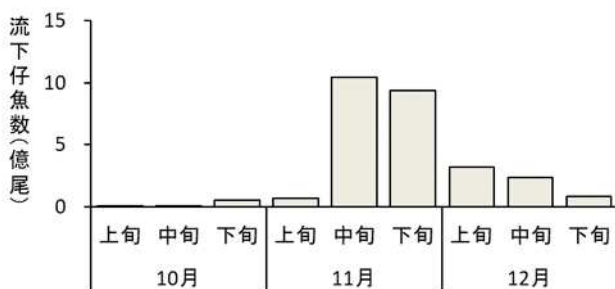


図 1 高津川における流下仔魚数の時期別推移

### (2) 遡上魚と放流魚の比率調査

遡上魚の占める割合は、高津川上流が 75.9%（遡上魚 22 尾、放流魚 7 尾）、高津川中流が 80.0%（遡上魚 24 尾、放流魚 6 尾）、高津川下流が 100%、匹見川が 82.8%（遡上魚 24 尾、放流魚 5 尾）であった（図 2）。水系全体では遡上魚の割合が放流魚よりも高かったことから、2024 年の遡上は良好であったと考えられた。

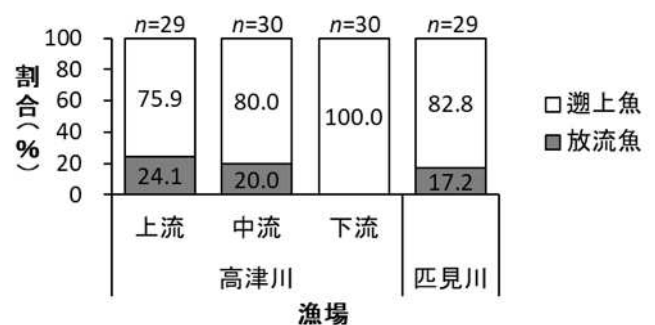


図 2 各漁場における遡上魚と放流魚の割合

### (3) 遡上魚の日齢査定

調査期間中に採捕された遡上魚は計 486 尾であり、そのうち 64 尾を抽出し、孵化時期を推定した。孵化時期は 2023（令和 5）年 11 月中旬から 2024 年 1 月下旬と推定され、そのうち 2023 年 11 月下旬から 1 月下旬に孵化した個体は 62 尾（約 97%）であった（図 3）。

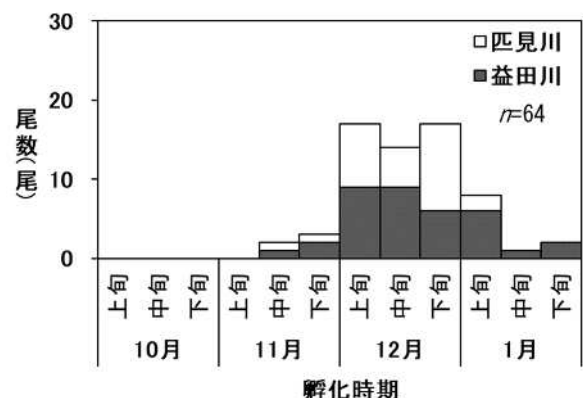


図 3 匹見川および益田川における遡上魚の孵化時期

## 4. 成果

調査結果は高津川漁業協同組合の漁場検討理事部会ならびに通常総代会等で報告され、資源回復対策を検討するための資料として活用された。